

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
日本キリスト教会館内 電話
03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 愛澤 豊重
編集主筆 竹澤 知代志



神の前での沈黙



勇 文人

語ることにおいて優れた才能を持つていながら、雄弁であることを捨てた男がいます。人並みはずれた才能を持ちながら、自らの無力さを思い知つていた男がいます。イスラエルの第二代目の王ダビデ。彼はたぐいまれな能力を持つていました。ダビデに出会つたサウルの従者がダビデのことをこう評しているほどです。「豎琴を巧みに奏でるうちに、勇敢な戦士で、戦術の心得もあり、しかも、言葉に分別があつて外見も良し」。そんな秀でた才能を持ちながら、ダビデは自分には何の希望も見いだしません。ダビデはただ神だけに信頼を寄せ歌います。

「神にわたしの救いはあ

「神こそわたしの救いと、神だけに頼つて歌います。他の何者でもなく、ただ神だけが、神こそがです。だからダビデは救いの源である神に向かうのです。」

神に向かうときに、沈黙します。人を引き付ける言葉を持っているにもかかわらず、沈黙して神に向かいます。神に向かうときにはどんな巧みな言葉もいらないということです。

「沈黙は金、雄弁は銀」という諺があります。「沈黙の方が雄弁よりも説得力がある。口をきかぬが最上の分別」と辞書には説明されています。

この諺のように沈黙がかかっていること、えって雄弁だということ、は、実に多く耳にすることです。聖書でも語られています。ダビデも詩編19編で言葉を持たない天が、神の栄光を雄弁に語ると歌います。

ある説教者はタビテの62編と19編の二つの歌を取り上げて説きます。

てまはたく。だがその輝きは千言万語にまさって、宇宙の宏大と自然の悠久とを雄弁に語っているのではない。多弁であって生活のないキリスト者は、まことに

星の前に恥ずべきだ」
ダビデは、この62編で、
神の御前で黙っていること
でかえって雄弁になると、
そんな分別を歌っているの
でしようか。

雄弁な沈黙ではなく

神の前に立つときに、雄弁に物語るために沈黙する必要もないのです。すべてを神にゆだねるのです。この世がどんなに騒ぎ立

つても神は神であり続けま
す。自分をめぐる状況がど
んなに暗く陰しいもので
も、神は岩であり砦の塔で
あり続けて下さるのです。

エルを脅かす外敵との戦い、そして、身内からもダビデに弓を引く者が現れる。文字通り内憂外患の日々を送り続けるのです。

イスラエルの背信

「神こそわたしの救い」とダビデは言います。「神にわたしの救いはある」「わたしの救いは神にかかっている」繰り返し繰り返しダビデは言っているのです。

「神にのみわたしは希望をおいてゐる」とタビデは言います。神が救いだ、と云ふことは、神は望みだ、つゝないぢやね。

神の名

神の名に立つ

神はアブラハムやモーサ
との契約を破棄されること
はありません。この確信に
ダビデは立ちます。この希
望にイスラエルの民は立つ
ように勧めます。

しかし神は、イスラエルが拒んだ主イエスに栄光をお与えになり、よみがえらせるのです。それは救い主の受難が救いをもたらすためであつたからです。

されたように、あなたたちイスラエルも主の御名の前に立ち帰れと勧めます。『神は我が救い』という主の御名に立てということです。主の御名に立つことは、『神こそ我が救い』だと言ったことと

しかし、イスラエルの民は立ち続けられませんでした。「神こそわたしの救い」であるにもかかわらず、神を拒みます。救い主イエスをキリストを拒み、十字架へと引き渡します。

訴えるのです。「だから自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち帰らなう。」

それは、「主のもとから慰めの時が訪れるからです。」
ここで「慰め」と訳されている言葉は、聖書のもとの言葉では「息をつく」と「息をつくひま」とも訳せるです。

な。お方を信じるときにこそ、私たちは揺らぐことの

「神にわたしの救いがある」

名を信じる信仰によって癒

言葉です
主の御前に立つとき、

神の御前に立つ私たちは今
く揺らぐことはありません

携えて 教団御用達の印刷所から近い。築地も途中だ。

その敵との戦いに身も心も
すり減らし、精根尽き果て
ていました。

ん。神だけが頼みであり、神のもとに救いがあるからです。だから、私たちは神の御前で、心のすべてを神に注ぎだせばよいのです。

▼旅行雑記のコーナーで立ち止まった。

荒野の
▼旅行雑誌の
コーナーで立
ち止まった。
「源泉掛け流
しの温泉宿」、
先ず、この辺

ながらも、意外なほどに寛
黙を貫いています。それけ
なげなのでしょう。地域
性なのでしょう。それと
も、想像を超えた地震の被害に圧倒されたからでしょう。

勘定し、「日帰り温泉」の前に移る。ついに鞆から手帳を取り出す。「ウーン」と唸って、本屋の天井を昇り上げたら、鏡に別のコーナーが映っている。江戸の古地図。▼数年来のプームの

宣教協力協議会、六〇年の歴史に幕

COCC最終全体会議、正式解散

五月三〇日、宣教協力協議会(Council on Cooperative Mission: COCC)が、教団、宣教協力学



1956 年 4 月 17 日、第 23 回全体会議。於：芦ノ湯



左から宣教協力学校協議会久世了委員長、山北宣久教団総会議長、日本キリスト教社会事業同盟稲松義人理事長、「合意文書」に調印

校協議会、日本キリスト教社会事業同盟の三構成団体の議員の出席を得て、第85回全体会議を最終全体会議として教団会議室で開催し、正式に解散した。教団と歴史的関係の深かった北米八教派の外国伝道

部が、戦後の日本のキリスト教界の復興のために組織した、基督教事業連合委員会(Interboard Committee on Christian Work in Japan: IBC)に対応する日本側の組織として日本基督教団、日本基督教教育同盟(現在のキリスト教学校教育同盟、後にIBC関係学校協議会が組織され、現在の宣教協力学校協議会となる)とIBCで内外協力会(Council on Cooperation)を一九四八年二月に設立した。これがCOCCの出発点である。一九五二年には、日本基督教社会事業同盟(後の日本キリスト教社会事業同盟)が構成団体として参加した。IBCは一九七三年に教

会対教会の相互の宣教協力志向し、教団も正式メンバーとした日・北米宣教協力会(Japan-North American Commission on Cooperative Mission: JNA)に改組され、一九八〇年代にCOCCから退会した。その後、日本、北米双方の社会的状況の変化、北米教会の財政逼迫などによりJNACCは二〇〇五年一月に解散した。これに伴い、COCCは、教団に発展的に解消することを二〇〇六年に決定した。五十九年の歴史の中で、COCCを通して派遣された宣教教師は約一七〇〇名、また、数百億円に達するといわれる財政支援を日本のキリスト教界は受けてきた。これらの人的、財的支援

第1回 宣教師支援委員会開催

JNACCの解散に伴い組織

第35総会期第一回宣教師支援委員会が、五月十一日(金)十四時〜十七時、教団会議室において開催された。当委員会は、教団から今橋朗委員長、時田教団

・橋爪志津代(洗足教会)、宣教協力学校協議会から永嶺雄三(女子学院)・立花慎一(青山学院)、宣教師からトーマス・ヴァンデバーク(清瀬みぎわ教会)が委員となり、世界宣教師部の上田博子幹事が担当幹事を務める。

シヨニ新任教師の赴任地を訪問し、本人だけでなく赴任機関の責任者とも面談する他、出席教会等の紹介も行う。

末端が犠牲になるという視点ではなく、末端から元気になるために、そうして都心の教会にその元気を届けるために、島

の教会は奮闘中である。都心の教会が、その末端の声にどう答え、どう関わっていくか、課題とされたひとときだった。

宣教師支援委員会は、JNACC(日・北米宣教協力会)の解散に伴い、教会やキリスト教学校に働く宣教師の個人的な問題を受け止め、側面からサポートし、日本での活動が円滑にいくように支援することを使命として、COCC(宣教協力協議会)において二〇〇五年度に組織されたことに始まる。そして、この度のCOCCの発展的解消によって、今総会期より、教団の世界宣教師委員会の下で委員会として位置づけられることとなったものである。

本委員会が担当している事項は次の四項目である。①新任宣教師オリエンテー

たCOCC解散記念レセプションには各構成団体から関係者や宣教師の方々をお招きし、COCCの歴史をスライドなどでかえりみた。

「人間のトリオド、神の力」を教団として初めて在日大韓基督教会と共催で開催した。

北米関係教会が強く希望していた、北米関係教会との教会対教会の新しい関係の構築と、多くの宣教師の方々の志と遺産を継承していくことが教団に課された

「島の教会を語る」をテーマに

第40回伊豆諸島連合修養会

五月二日(火)から三日(水)にかけて、第40回伊豆諸島連合修養会が八丈島教会を会場に行われた。第40回を記念して七〇名を超す参加者が与えられ、交わりと分かち合いの時を持った。八丈島教会は、「八丈島教会」と「八丈島シャローム教会」が二〇〇三年に合同して誕生した。

司」と、教会員の手作りの「明日葉の胡麻和え」は絶品。中にはシャローム会堂の庭に出て日差しと景色を楽しみながら舌鼓を打つ参加者もいた。

司」と、教会員の手作りの「明日葉の胡麻和え」は絶品。中にはシャローム会堂の庭に出て日差しと景色を楽しみながら舌鼓を打つ参加者もいた。

司」と、教会員の手作りの「明日葉の胡麻和え」は絶品。中にはシャローム会堂の庭に出て日差しと景色を楽しみながら舌鼓を打つ参加者もいた。

司」と、教会員の手作りの「明日葉の胡麻和え」は絶品。中にはシャローム会堂の庭に出て日差しと景色を楽しみながら舌鼓を打つ参加者もいた。



第 40 回を記念して 70 名を超す参加者

司」と、教会員の手作りの「明日葉の胡麻和え」は絶品。中にはシャローム会堂の庭に出て日差しと景色を楽しみながら舌鼓を打つ参加者もいた。



宣教師の活動が円滑にいくように

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

①

②

③

④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨

⑩

前身委員会以来の数多い課題を担う

五月十七日・十八日、教団会議室で昨年の教団総会決議に基づき常議員会のもとに設置された「在日韓国朝鮮人連帯特設委員会」の第一回会合が招集された。

委員は西田直樹（招）、長山信夫、向井希夫、土井桂子、尾崎風伍の五人。野村和正宣教部幹事が担当幹事。

身にあたる「在日韓国朝鮮人・日韓連帯特別委員会」の活動と昨年発行されたブックレット在日・日韓連帯シリーズXV「在日・日韓連帯の30年―私たちの歩んだ道―」の中から当委員会が継承すべきもの、尾崎風伍委員がその委員会に提出されていた意見書、世界宣教委員会との韓国協約委員会との関係、外登法問題と取り組む全国キリスト教連絡協議会（外キ協）との関わりなどについて意見交換をした。

二日目、委員長に西田委員、書記に土井委員を選任し、これまで当教団が中心的な役割を担ってきた外キ協との関係、外キ協事務局を担う人に協力委員として席席を要請することの可否について協議したが、野

村幹事が事務局に参加することになるという理解のもとにこの案は見送られた。次にこの委員会の目的・活動について協議した。尾崎委員の「意見書」も含めて意見交換をする中で、まず在日大韓基督教教会との協約について学ぶことの必要性が認識され、次回委員会



基本姿勢について話し合う。右端が西田直樹委員長

第1回 国際関係委員会開催 世界宣教枠組の改組により発足

第35回総会期国際関係委員会が、五月二日に教団会議室で行われた。

校長、藤田義哉（玉川平安教会教師、渡辺多恵子（十貫坂教会信徒）で全員で五名である。

国際関係委員会はその名の通り、世界宣教師協会の下で、教団と全世界の関係教会（スイス、台湾、韓国）

通して、現在「対テロ戦争」の名目で外国人に対する人権抑圧の法制化が進んでいる状況（指紋制度の復活や外国人入国在留カードの導入、外国人雇用状況報告の義務化、外登証時携帯制度など）について諸教会の理解が深まるような努力をすること、なども話された。

中部 能登半島地震と被災教会の再建

高橋 潤

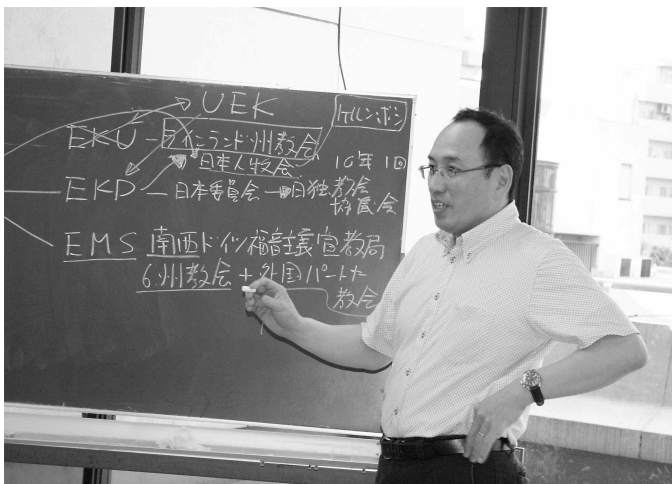
三月二十五日（日）の教会学校が終わる頃、能登半島地震が発生した。被災した教会施設は、能登にある輪島教会、羽咋教会、富来伝道所、七尾教会と富山地区の魚津教会だった。

この地震の特徴は、余震による被害の拡大であった。当初の現地からの情報で安心してしまった所に、無数の亀裂被害があることが後から分かってきた。また、観光地ゆえに、被害状況ありのまま

教区 コラム

話よりも電子メールであった。特に、通常のメーリングリストによる被災教会の牧師からの生の情報が、電話が回復する前に入ってきたし、被災教会のホームページに掲載された写真に

（中部教区総会議長）

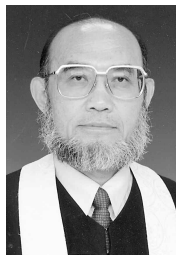


中道委員長によるドイツ諸教会と教団との関係説明

議され、本年五月末のCOC（宣教協力協議会）の解消を控えて新設された経緯があり、教団内ですでに継承すべき課題が生じている。それを明確にし、引き継ぐのが本委員会の目的である。

現在教団は、フィリピン合同教会、南西ドイツ宣教会、米国長老教会、アメリカ改革派教会等々から関係構築やプログラム継続の申し入れがあり、早急な対応に迫られている。

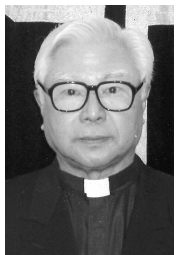
消息



三田 和芳氏（隠退教師）

三月三日、逝去。六八歳。北海道に生まれる。一九六三年青山学院大学大学院修了後東奥義塾高校に教務教師として赴任。その後静岡英和女学院に奉職し、七〇年から七八年まで桜木教会牧師を務め、二〇〇三年隠退した。遺族は妻の照美さん。

岡本加都夫氏（隠退教師）



五月六日、逝去。七五歳。京都市に生まれる。一九五六年同志社大学大学院修了後浜坂教会に赴任。その後倉敷南、琴浦教会牧師を務め、六四年から六八年まで松山学院に教務教師として奉職。松山、曾根教会を経て八九年から河内天美教会を牧会し二〇〇一年隠退した。遺族は妻の和子さん。

事務局報

補教師登録

海老原佳奈

（二〇〇七・四・三〇受允）

川添義和、末 永廣

田中寿明、安田昌英

（二〇〇七・五・一受允）

奥 正彦、川本良明

中山契生、松谷洋介

森島 豊、山口英希

（二〇〇七・五・二受允）

阿部 啓、堀江知己、南 豊

市原 順、高田 太

安森智司、大門耕平

渡邊圭一郎

（二〇〇七・五・二受允）

大平有紀、川合 望

河南一成、中村悦子

榎木進一

（二〇〇七・五・二受允）

柳谷雄介、稗田みどり

（二〇〇七・五・二受允）

岩見朋子、石井和典

（二〇〇七・五・三受允）

北中晶子、陣内大蔵

原田謙治、望月麻生

大坪直史

（二〇〇七・五・二受允）

鈴木 光、岡田はるみ

布村伸一

（二〇〇七・五・二八受允）

石井美琴、小川幸子

森松民子

（二〇〇七・五・二九受允）

正教師登録

松本 周、佐原光児

（二〇〇六・十二・二受按

中村吉基、丸山和則

杉村和子、西山崇文

飯田英章、安藤博子

（二〇〇六・十二・十受按

小川文子、金子 健

（二〇〇七・四・三〇受按

中井大介

（二〇〇七・五・三受按

生田香緒里、沖崎 学

鄭 富京

（二〇〇七・五・十七受按

神山美奈子、佐竹 直

林 陽子

（二〇〇七・五・二二受按

児玉義也、児玉慈子

（二〇〇七・五・二三受按

加藤輝勢子、野間光顕

（二〇〇七・五・二八受按

教師異動

長門 辞（主）稲垣裕一

西条 辞（担）野村幸男

小倉日明 辞（主）安田和人

八幡鉄町 辞（主）七條真明

八代 辞（主）藤野進之介

膳所 辞（担）水島祥子

本庄旭 辞（担）川上清樹

西千葉 辞（主）森田喜之

いすみ 辞（主）森田喜之

就（主）安田和人

大阪西野田 辞（主）井上 理

就（代）三枝道也

盛岡松園 就（代）邑原宗男

大鶴 辞（代）竹内郁夫

就（代）竹内豊子

藤崎 辞（代）松村重雄

就（兼主）松村重雄

希望ヶ丘 就（担）水島祥子

御所 辞（主）高橋圭子

ハニルチャーチ 辞（担）川桐信彦

東調布 辞（担）中込己一郎

清瀬信愛 辞（担）岩居保久志

辻堂 辞（代）柳原鐵太郎

南大阪 辞（担）今村正夫

就（担）今村正夫

豊中 辞（担）本電 晋

生駒 辞（担）八木康雄

神崎川 辞（担）櫛来さより

天満 辞（担）橋高 聡

神戸 辞（担）中井大介

宇和島信愛 辞（主）佐藤浩之

八戸小中野 辞（主）徳田 亮

札幌北光 辞（担）中井利洋

鴨島兄弟 辞（主）堀地正弘

辞（担）堀地敦子

土佐嶺南 辞（主）藤井 敏

就（代）石尾英幸

伊予吉田 辞（兼主）佐藤浩之

就（代）池上信也

佐川 辞（主）岡崎孝一郎

ドイツビュルテンベルグ州

教会 就（外）南 吉衛

ケルン・ボン日本語キリス

ト教会 辞（外）大塚高志

境港 辞（主）草地大介

上井 辞（主）藤原寛人

就（代）鈴木恭子

長門 就（代）鈴木恭子

主の召しに応えて

伝道のともしび

万事が益となる

武山教会牧師 小堀 新平

週三回の透析は主として夕方から始まる。その送り迎えは私たち夫婦の欠かすことのできない日課となった。健常者には見られない純真さと、嘘を言わない「日の子」は神さまが託してくださった私たちの宝であった。その「日の子」を召された御心は、今以て知ることとは出来ない。

「日の子」の召天により、私たちは透析のための通院から解放された。透析の持続は生命の維持に関わることであり、全ての私生活に優先されるものだった。そこから解放された私たち夫婦はその時

後の私の歩みの上に無形の財産を与えられたことになる。

だが所詮は、信徒の学びである。将来、組織と肩書きの力に頼らない道をいずれば求めたいと願っていた私は、一九八七年一〇月、Ｃコース



2006 年 12 月 23 日、CS の子どもたちと

私には三人の子供がいた。長女を「日の子」という。自閉症だった。「日の子」は二八歳で、母親の運転する自動車事故で主の御許に召されてしまった。一九八四年のことである。驚異的な記憶力とあらゆるジャンルの音楽への造詣の深さは驚くものがあったが、健常者にみられる社会性には欠けていた。教会生活では何よりも主日礼拝を忠実に献げ、教会挙げて愛され慈しまれていた。中でも阿部志郎氏の親友であった。

間を神学の学びに当てることになった。一九八五年四月、当時教文館の九階で開講されていた、東神大夜間講座に、第三九期生として夫婦で受講した。月曜日と金曜日の午後六時からの講座は、信徒の私たちにとり、新鮮で魅力的なものであった。幸い、勤め先は銀座にほど近く、講義は二人して皆勤の二年間を送ることができた。「日の子」が召されるまで、主として北米を主力とした海外プロジェクトの責任を持たされていたが、この事故後は、国内での仕事に移ったことも、受講には大いに便宜を与えられた結果となる。

この東神大夜間講座の受講の動機は、特に召命を受けてのことではなかった。正直に思つことは、「日の子」の透析治療により束縛されていた時間を有効に使いたいという単純な思いからに他ならない。夜間講座での二年間は私としては唯一の組織的な神学の学びの時であった。のみならず、各分野の第一級の諸先生方にまみえ、知己を得たことは、その

この東神大夜間講座の受講の動機は、特に召命を受けてのことではなかった。正直に思つことは、「日の子」の透析治療により束縛されていた時間を有効に使いたいという単純な思いからに他ならない。夜間講座での二年間は私としては唯一の組織的な神学の学びの時であった。のみならず、各分野の第一級の諸先生方にまみえ、知己を得たことは、その

併設されていた幼稚園を二〇〇〇年に閉じ、ひたすら信仰告白を規範とした教会形成に、全力を傾倒した。創立五三年目の二〇〇六年一月、老朽化した会堂に代わり、新会堂の献堂式を迎えることが出来た。まずは一区切りの宣教牧会の歩みを終えたと言えるであろう。さりながら、誠に貧しき自らの器を顧みるとき、ご恩寵の大きさに、畏れおののく日々である。

明日の教会幼稚園の課題

全国教会幼稚園連絡会 園長・設置者会

第35回全国教会幼稚園連絡会 園長・設置者会が六月四日から六日まで、中央工学校南ヶ丘倶楽部（軽井沢）で開催された。講師の聖学院大学・阿久戸光晴学長により、「改定教育基本法」から、保育の教育化？

や成人中心社会における、幼児の位置の曖昧さを検証しながら、先を見据えた学びを得る事ができた。阿久戸氏は、幼児期を単なる通過儀礼や、忘却される過去にしてしまつ事なく、教育（education）という語源から、創造性を養う事や、やる気を引き出すことが、社会を支える人間の共同体形成につながる第一歩であり、そこにかかわる保育者が、子どもたちの足元に立ち、出会う子どもたちに畏敬をもって保育にあたるという、言わば、保育の基本に立ち返るべきことを示して下さい。これからの保育のあり方を問いつつ、前に進む事の大切さを感じる。

教会自主活動団体としての役割は、新任教師オリエンテーションがある様に、最近、これからスタートする新任園長・設置者の方々に、特に参加をお願いしている。今回も、四国、兵庫、大阪、中部、東海、神奈川、西東京、東京、関東の九教区からの参加があり嬉しく思う。毎年、転任と就任の一番忙しい時期ではあるが、共々に出席いただき、初めて経験する、幼稚園の様々な出来事に汗している苦労多き教師にとつて、「大変参考になりました」との感想を頂いたり、中越地震、能登半島沖地震の、被災地を抱える幼稚園の生の現場の様子が報告された。園長・設置者会は、教会幼稚園の年度初めのオリエンテーションとしての位置づけも加味されている様と思う。附属施設の教会幼稚園を維持管理する際、牧師が代わる時に必要な課題や事柄を見つめ、園児減少・情勢変化の波に抗して、教会幼稚園がどうあるべきかなど、課題は山積しているが、更なる皆様の参加を得て、付託に応えたいとスタツプ一同願っている。（古屋博規報）

《教会幼稚園融資金貸出要綱》

幼稚園の土地拡張、増改築、新築のため、幼稚園融資金2007年度分を次の要領で募集します。

- ◎金額：50万円～300万円
- ◎返済期限：5年以内
- ◎利率：子：期限内 年1.0%
期限後 年2.0%

◎締切：8月31日
2007年度は600万円を2～3の教会幼稚園に貸し出します。希望幼稚園は、教区事務所を通して教団教育委員会まで申し込んでください。融資規定、申請書は教育委員会（TEL 03 - 3202 - 0544）へ。



村上 幸代さん

選択権は神に



1939年生まれ。前キリスト教保育所同盟理事、元わかくさ保育園園長、旭福祉会常任理事、岩本教会員。

「一九七九年十一月、故望月英一郎旭福祉会理事長から呼ばれました。何かあったかかと思いい巡らせながら、出かけました。そこには富士市の保健部長や他の大勢の人たちがおられ、なにやら面接試験のような感じで、私も緊張しながら挨拶をしました。最後に理事長から『わかくさ保育園の園長に』と告げられました。既に決められていて私の選択権はありませんでした」と、村上さんは、当時、園長の辞令が与えられた様子を懐かしく話された。

社会福祉法人旭福祉会の創立時の望月理事長は、岩本教会の会員であり長老も務めた。神への深い信仰から仕事を持つ親を支援する為に、みどり保育園の選択権はありませんでした」と、村上さんは、そのキリスト教保育を掲げる公設民営化の初代園長として、今年三月まで二七年間、その責任を担われた。キリスト教保育園の園長として彼女を悩ませたのは、地方にクリスチャン保育士がいなかった事だった。その中でキリスト教保育を実践する為には、保育園の中で御言葉を語り続ける事を祈りの内に確信した。だから他

の選択肢はなかった。毎週子ども礼拝で、子どもと職員の前で聖書の御言葉を語り続けた。しかし、それを続けるには、毎週日曜日の主日礼拝で自分自身が真摯に御言葉に耳を傾け、聞き続ける事だった。それが彼女の二七年間を歩み抜く原動力となった事は、疑いない事実である。この間、保育園に困難で様々な出来事があり、また最愛の娘を天に送る辛い経験もした。しかし、常に御言葉に導かれ養われてきた。現在、保育園の常任理事として後任の指導をしつつ、ご主人の介護もこなす。私の選択権は、いつも神様に与えられたもの、と言っている。

各教区総会がほぼ終了した。当然ではあるが、山北議長が、全教区に挨拶を送られたが、一人で全教区を巡回できるはずもなく、他の二役と総幹事が、分担して各教区総会を回り、議長挨拶を行い、様々な質問に対応することとなる。

私も分担上、四教区を担当したが、今回の質問は「正しい聖礼典とは何か」と、その関連の「措置」に集中した。

しかし「正しい聖礼典」は、教憲・教規に定められており、昨年六月に、改めて信仰職制委員会か

教憲・教規

る理解の余りの違いである。ある人は、教憲・教規を人の作った組織の単なる規則としてしか捉えず、「議長は強権だ」と言い、よけふさげた人は、個人的にはあるが、この締め付けは「狂犬・狂

ら答申が出されたように、未受洗者への配餐と、補教師の聖礼典執行は認められないことを指す。しかし、今回改めて考えさせられたことは、「教憲・教規」に対する理解の余りの違いである。ある人は、教憲・教規を人の作った組織の単なる規則としてしか捉えず、「議長は強権だ」と言い、よけふさげた人は、個人的にはあるが、この締め付けは「狂犬・狂

改めて確認したい。「教憲」とは、私たちの信ずる教会の形を文言に表したものであり、従って、教規とは、そこに表された私たちの教会の秩序と清潔を守るためのものであり、決して、冷たい締め付けのような性格のものではない。それ故に、洗礼式・准允式・按手礼式の時には「これを守ります」との意味の誓約をするのである。これを放棄しての教団の共同の歩みは不可能と言わざるを得ない。今一度原点に立ち帰りたい。（教団総会副議長 小林 真）